

＜お題 8：建物ポリゴンのデータ連携＞

土地家屋調査士 白土洋介

【アイデアの概要】

自治体の固定資産台帳データから、所在・地番を広い、不動産番号を付与する

【課題】

自治体の固定資産台帳データには、多くがポリゴン化されていると想定され、それに所在・地番・家屋番号がついていると思われる。また、所在・家屋番号をもとに不動産番号を付与することも可能かと思われるが、連携がされていない状況かと推測される。

【課題解決のための手法】

自治体の固定資産台帳データから、所在・地番・家屋番号を抽出し、不動産登記CSV等から不動産番号のマッチングを行う。

不動産番号が付与されてしまえば、登記事項は紐づけ可能であり、キー変（所在・地番）がある場合は、法務局より税通用のデータが送付されるものと思われる。（異動更新）

【上記手法の利用シーン】

PLATEAUのデータに不動産番号が付与されることにより、所在・地番が分かるだけでなく、不動産番号をもとに登記記録の取得・参照も容易になると考える。

通常時になるべく多く利用し、災害時などには慣れた手法で迅速な処理が行えることは、多方面で有効であると思われる。